

ジュニア審判 マニュアル

ソフトテニスのルール(きまり)と
審判のしかた

(公財)日本ソフトテニス連盟

*ファイナルゲームのサービスとレシーブ	11
*サービスの順番やサイドの間違いがわか ったら?	14
10. 判定	14
11. ポイントを失うのはどんなときか?	15
12. ノーカウントになるのはどんなときか?	18
13. タイム	19
14. 禁止事項	19
15. アンパイヤーの判定に異議がある場合は どうしたらよいか? (質問)	20
16. 棄権になるのはどんなときか?	21
17. 警告	21
18. 失格になるのはどんなときか? (レフェリーストップゲームセット)	22
19. マッチの中止と再開	22
20. 順位の決め方	23

目 次

競技規則について	2
1. コートとラインの名前	2
2. ボール	2
3. ラケット	3
4. プレーヤーがよくわかっていなければ ならないこと (心得)	3
5. マッチ (試合のことをいう)	4
6. ゲームの勝ち負け、マッチの勝ち負け	5
7. サービス	6
*いつサービスを打つのか?	6
*サーバーとは? レシーバーとは?	6
*サービスをする位置	6
*サービスをするプレーヤー	6
*サービスがフォールトとなるのはどんな ときか?	7
*サービスがレット (そのサービスのやり 直し) となるのはどんなときか?	8
*サービスのときの失ポイント	9
8. レシーブ	10
*レシーブの順序	10
*レシーブでポイントを失うときはどんな ときか?	10
9. サービス・レシーブのチェンジとサイドの チェンジ	11

審判規則について	24
1. アンパイヤーの任務と心得	24
2. アンパイヤーの判定区分	25
3. サイン	26
4. 判定の確認と連携	29
5. プレーヤーから 質問があったときは? (再判定)	29
6. 判定を間違えたときは? (判定の誤り)	29
7. 間違ってインプレーを止めさせるサイン またはコールをしたら? (プレーの停止)	30
8. スコアの間違いはどうすればよいか? (スコアの誤り)	30
9. アンパイヤーはマッチの途中で交替できるのか? (交替の禁止)	30
10. マッチの進め方	31
*マッチ前の挨拶	31
*トス (サービスかレシーブかまたは サイドを決める)	32
*マッチ開始前の練習	33
*「レディ」	33
*マッチは次の要領で進める	33
11. 採点票への記入の仕方	36
*採点票の記入例	37
12. 用語を正しく使おう	38
13. 用語の意義と判定及びカウントのコール	39

ソフトテニスのルール(きまり)

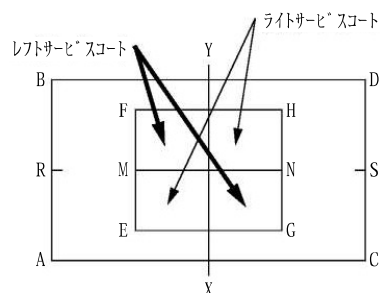
ソフトテニスのルールは、ソフトテニスが安全に、正しく、楽しく、スムーズに行われるように、大切なことを決めてあります。このきまりは、ダブルスのマッチを中心に説明してありますが、シングルのマッチも同様です。

むずかしいところもあると思いますが、用語やルールの基本的なきまりを学習して、小・中学生もジュニア審判員の資格を取って、プレーはもちろん審判もできるようにしましょう。

競技規則について

1. コートとラインの名前

(線 名)	(区 画)
サイドライン	A C, B D
ベースライン	A B, C D
サービスサイドライン	E G, F H
サービスライン	E F, G H
サービスセンターライン	M N
センターマーク	R・S

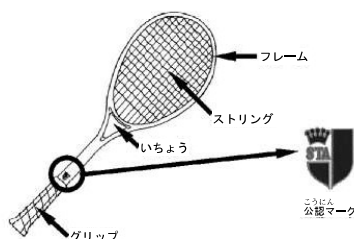


2. ボール

バウンドの高さは、マッチを行うコートで、1.50 mの高さから落として、70 cm～80cm はずむようにする。(ボールの下の端で測る。)

3. ラケット

- (1) (公財) 日本ソフトテニス連盟が認めた公認マークが付いていること。
- (2) ラケット面に物(振動防止など)を付けてはいけない。



4. プレーヤーがよくわかっていなければならないこと(心得)

プレーヤーは、お互いにマナーを大切にし、次のことを守らなければならない。

- (1) 大きすぎる声を出したり、相手が嫌な感じを受けるようなことをしたり、言ったりしてはならない。
- (2) マッチの始まりから終わりまで、続けてプレーすること。
 - ① サイドのチェンジとファイナルゲームに入るときは、前のゲームの最後のポイントが終わってから、1分以内に次のゲームのポイントを始められるようにすること。遅いときには

すぐ始めるようにアンパイヤーは「レツツプレー」とコールする。

- ② 相手がレシーブの構えをしているのにサービスをしなかったり、相手がサービスをしようとしているのにレシーブの構えをしなかったりしてはいけない。
- ③ わざとゲームを長引かせることをしてはいけない。
- ④ マッチの進行に妨げとなるような、パートナー同士の話し合いや休憩をしてはいけない。
- ⑤ ゲームが終わったら、すぐに次のゲームに入る。
- ⑥ ファイナルゲームの中で、サイドのチェンジをするときは、休憩をしたり、監督のアドバイスを聞きに行ったりしてはいけない。
- ⑦ スtringの張り替えやグリップテープを巻きかえるなど、ラケットの修理をしてはいけない。
- (3) アンパイヤーが言ったことにしたがってプレーしなければいけない。

5. マッチ(試合のことをいう)

- (1) マッチは2人で1ペアをつくり、ひとりひとりのプレーヤーはそれぞれ1本のラケットを持ってプレーする。
- (2) ボールはネットをはさんだペアが、かわるが

わるどちらか1人のプレーヤーが打たなければならない。

(3) マッチは普通5ゲームまたは7ゲームで行う。

6. ゲームの勝ち負け、マッチの勝ち負け

- (1) ゲームは4ポイント先に取った方が勝ちとする。ただし、両方が3ポイントずつ取ったときは「デュース」となる。
- (2) デュースのあと1ポイントを取った方が「アドバンテージ」となり、続けてもう1ポイントを取ると勝ちとなる。
- (3) アドバンテージの次に相手が1ポイント取ったら「デュースアゲン」となり、デュースのときと同じになる。
- (4) 5ゲームマッチで両方のペアが2ゲームずつ取ったとき、または7ゲームマッチで両方のペアが3ゲームずつ取ったときは、次のゲームを「ファイナルゲーム」とし、7ポイントを先にとった方を勝ちとする。ただし、両方のペアが6ポイントずつ取ったときは「デュース」となる。
- (5) 5ゲームマッチでは3ゲームを、7ゲームマッチでは4ゲームを取ったペアが、マッチの勝者となる。

7. サービス

サービスはサービスをするプレーヤーがトスをしたときに始まり、ボールがコートに落ちるまでの間に、そのボールをラケットで打ったときに終わる。

(1) いつサービスを打つのか？

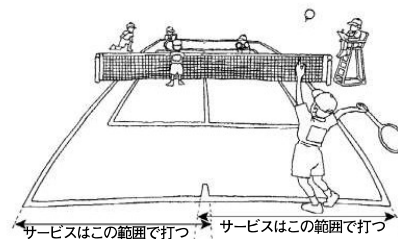
正審（審判台にすわっているアンパイヤー）のコールがあった後、レシーバーに用意ができていることを確かめてすぐに打つ。

(2) サーバーとは？ レシーバーとは？

サービスをするペアをサーバー、レシーブをするペアをレシーバーという。

(3) サービスをする位置

サービスは、サイドラインとセンターマークの間で、ベースラインの外側で行う。



(4) サービスをするプレーヤー

- ① サービスはサーバーのどちらか1人が行い、ネットに向かってセンターマークの右側から始め、相手のライトサービスコート、レフト

サービスコートへかわるがわる入れる。

- ② 2人のプレーヤーは同じゲーム中に、2ポイントずつかわるがわる打つ。
- ③ 一つのゲームの中では、サービスの順番を替えることはできない。
- (5) サービスがフォールトとなるのはどんなときか？
 - ① 正しいサービスコートに入らなかったとき。
 - ② サービスをしようとして、手から放したボールを打たなかったとき。
 - ③ サービスをしようとして、2個一緒にトスしたとき。または、ボールを手から放して、それを打つまでもう一つのボールを手から落としたとき。（ポケットのボールは含まれない。）
 - ④ サービスをするとき、ボールがラケットに2回以上あたったとき「ドリブル」。ただし、カットサービスはボールがラケットにあたった回数は1回とする。
 - ⑤ サービスされたボールが、直接アンパイヤー、審判台、バートナーのラケット、からだ、



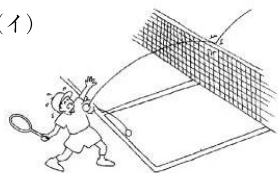
ユニフォームにあたったとき。

- ⑥ サービスされたボールが、ネットまたはネットポストにあたった後、(ア)、(イ)の場合。
 - (ア) コート、アウトコート、審判台などにあたる前にサーバーのラケット、からだ、ユニフォームにあたったとき。
 - (イ) サーバーのラケット、からだ、ユニフォームがネット、ネットポストを越えたり触れたとき。
- ⑦ サービスをするときに、ラインを踏んだり、サイドラインやセンターマークの外側に足が出たとき。「フットフォールト」

(6) サービスがレット（そのサービスのやり直し）となるのはどんなときか？

- ① 正審のコールがないのにサービスしたり、レシーバーに用意ができていないのにサービスをしたとき。サービスが正しいサービスコートに入ったか入っていないかにかかわらず、そのサービスをやり直す。
- ② サービスされたボールが、ネットやネットポストにあたった後、(ア)、(イ)、(ウ)の場合。
 - (ア) そのボールが正しいサービスコートに入ったとき。
 - (イ) そのボールがレシーバーのラケット、からだ、ユニフォームにあたったとき。

(イ)



(ウ) レシーブをするプレーヤーのパートナーが、サービスされたボールが入るべきサービスコートに入ったとき。

③レシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前に、(ア)、(イ)、(ウ) の場合。

(ア) アンパイヤーが判定を間違ったためにプレーに影響があったとき。

(イ) よそのコートのボールなどによって、プレーが邪魔されたとき。

(ウ) 失ポイントになることが両方のペアに同時にあったとき。

④サービスがレットとなったときは、そのサービスをやり直す。

⑤その他正審が特に必要と認めた場合。

(7) サービスのときの失ポイント

ファーストサービスがフォールトになったときは、セカンドサービスを行うことができる。

ファーストサービスもセカンドサービスもフォールトになったときは、ダブルフォールトとして1ポイントを失う。

8. レシーブ

サービスされたボールを、ワンバウンドしてから、ツーバウンドする前に打つこと。

(1) レシーブの順序

①レシーバーはそれぞれライトサービスコートかレフトサービスコートのどちらかでレシーブするものとし、そのゲーム中は替わることができない。

②レシーブはライトサービスコートから始め、右・左かわるがわる行う。

(2) レシーブでポイントを失うときはどんなときか？

①レシーブしたボールが相手コートに入らなかったり、空振りしたなどレシーブできなかったとき。

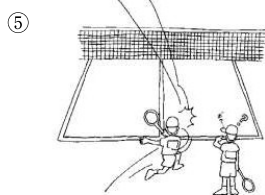
②サービスされたボールが直接レシーバーのラケット、からだ、ユニフォームにあたったとき。「ダイレクト」

③サービスされたボールがツーバウンドする前に、レシーブをするプレーヤーのパートナーのラケット、からだ、ユニフォームにあたったとき。「インターフェア」

④レシーブするプレーヤーがレシーブを終わる前に、パートナーがそのサービスコートに触れたとき。「インターフェア」

⑤一つのゲーム中に、レシーバーのレシーブの

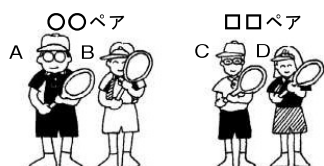
順番が間違っているのがわかったとき。「インターフェア」ただし、そのポイントだけ。



9. サービス・レシーブのチェンジとサイドのチェンジ

(1) サービスとレシーブは、1ゲームを終わるごとに相手のペアと交替して行い、奇数(1・3・5)ゲームを終わるごとにサイドのチェンジを行う。「チェンジサイズ」

(2) ファイナルゲームは、相手のペアと2ポイントごとにサービスのチェンジを行い、始めの2ポイント後、あとは4ポイント終わるごとにサイドのチェンジを行う。



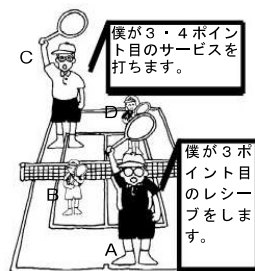
(3) ファイナルゲームのサービスとレシーブ

①最初の2ポイントのサービスをするプレーヤーは、サービス権を持っているペアのうちのどちらかのプレーヤーとする。



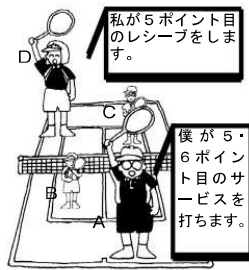
(チェンジサイズ)

②3ポイント目と4ポイント目のサービスは、最初にレシーブを行ったペアのどちらかのプレーヤーとする。3ポイント目のレシーブは、最初の2ポイントをサービスしたペアのどちらかのプレーヤーが行う。



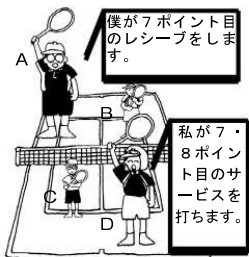
(チェンジサービス)

- ③ 5ポイント目、6ポイント目のサービスは、最初のポイントのサービスをしたペアのもう1人のプレーヤーが行う。



(チェンジサイズ)

- ④ 7ポイント目、8ポイント目のサービスは、3ポイント目、4ポイント目のサービスをしたペアのもう1人のプレーヤーが行う。



(チェンジサービス)

- ⑤ この後はこの順番でサービスとレシーブを行う。
⑥ レシーブをしたときに、レシーバーのレシー

ブの順番が替わっていることがわかったら、そのポイントはインターフェアとして1ポイントを失う。

- (4) サービスの順番やサイドの間違いがわかったら？

- ① サービスのチェンジまたはサイドのチェンジの間違いがわかったときは、
ア. サービスをする前であれば、そのポイントから正しく直す。
イ. 間違いに気付いても途中でプレーを止めず（止めたなら、止めた方がポイントを失う。）、次のポイントから正しく直す。それまでのポイントは有効である。
- ② サービスのチェンジを間違ったとき。「チェンジサービス」
サイドのチェンジを間違ったとき。「チェンジサイズ」
- ③ パートナーとのサービスの順番を間違ったとき。「ローテーションチェンジ」
- ④ サービスコートの順番を間違ったとき。「ローテーションチェンジ」
- ⑤ 間違いがファーストサービスのフォールトの後にわかったときは、そのときに正しい順番に直し、ファーストサービスから行う。

10. 判定

- (1) インかアウトかは、ボールが落ちたところ

決める。

- (2) ラインに触れたものはすべてインとする。

11. ポイントを失うのはどんなときか？

- (1) 打ったボールがネットを越えなかったとき。
(コールなし) ただし、次のようなときはインとする。
① 打ったボールがネットまたはネットポストにあたっ、これらを越えて正しく相手のコートに入ったとき。
② ボールがネットポストの外側をまわり、またはネットポストにあたっ、相手のコートに正しく入ったとき。
- (2) 打ったボールがアウトコートに落ちたとき。
または直接そのマッチのアンパイヤー、審判台などにあたったとき。「アウト」
- (3) ボールがツーバウンドする前に打ち返せなかったとき。
- (4) 打ったボールがプレーヤーのからだやユニフォームにあたったとき。「ボディタッチ」

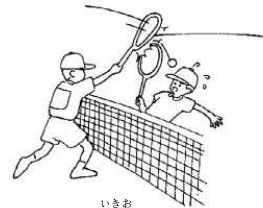
(4)



- (5) 空振りしてラケットがネットやネットポスト

を越えたとき。「ネットオーバー」ただし、ボレーをして、そのいきおいで越えたが、インターフェア（打球妨害）にならないときはよい。

(5)



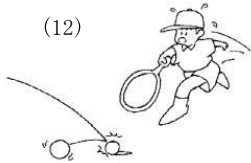
ボレーした勢いであっても、相手のじゃまをしたらダメ。

- (6) ネットまたはネットポストに触れたとき。「ネットタッチ」
* 風のためにふくらんだネットに触れたとき。「ネットタッチ」
* 相手の打ったボールがネットにあたり、そのボールがネットを押してプレーヤーに触れたとき。「ネットタッチ」
- (7) ラケット、からだ、ユニフォームが、そのマッチの審判台やアンパイヤーに触れたとき。「タッチ」
- (8) ラケット、からだ、ユニフォームが、相手のコート、相手のラケット、からだ、ユニフォームに触れたとき。「インターフェア」
- (9) ボールを打ったとき、そのボールがラケットに2回以上あたったとき。「ドリブル」

(10) ボールがラケットの上で止まったとき、またはラケットのいちょうの空いているところにはさまったとき。「キャリー」

(11) 手から離れたラケットで打ち返したとき。「インターフェア」

(12) ボールがコートの中に転がっていた他のボール、または帽子、タオルなどにあたって打ち返せなかったとき。(コールなし)



(13) ボールがラケットのフレームにあたって打ち返せなかったとき。「チップ」

(14) ラケット、帽子またはタオルなどが、プレーヤーから離れて直接ネットやネットポストに触れたとき。「ネットタッチ」

(15) ラケットが一度コートに落ちてからネットに触れたとき。「ネットタッチ」

(16) プレーヤーがコートまたはアウトコートに落ちていた帽子、タオルなど(ボールは含まない)を、手や足やラケットで押しやったものが、直接ネットまたはネットポストに触れたとき「ネットタッチ」、そのマッチのアンパイヤーや審判台に触れたとき「タッチ」、相手方プレーヤーのラケットやからだ、ユニフォームに触れたり、相手方コートに入ったとき。「インタ

ーフェア」

(17) 明らかな打球妨害になったとき。「インターフェア」

12. ノーカウントになるのはどんなときか？

インプレーにおいて、次のようなときはノーカウントとし、ファーストサービスからやり直す。ただし、サービスがレットになる場合を除く。

(1) アンパイヤーが判定を間違ったためにプレーに影響があったとき。判定に関係なくポイントが決まったときなどは、判定を正しく直すだけでよい。

(2) 思いがけないことが突然起こってプレーが邪魔されたと正審が認めたとき。

(3) そのマッチに関係がない人がやったことでプレーが邪魔されたと正審が認めたとき。

(4) 他のコートのボールが入ってきて、プレーが邪魔されたと正審が認めたとき。

(5) そのマッチで使っているボールであっても、そのマッチに直接関係していない人が投げ入れて、そのためにプレーが邪魔されたと正審が認めたとき。

(6) 失ポイントになることが両方のプレーヤーに同時に起こったとき。(例えばボレーをしたボールがきまって、ツーバウンドすると同時に、ボレーをしたプレーヤーがネットタッチをする

など。)

(7) その他正審が特に必要と認めたとき。

13. タイム

マッチの途中で次のようなときはタイムを取ることができる。

(1) プレーヤーが急にからだの具合が悪くなってプレーが続けてできなくなり、これを正審が認めたとき。ただし、1人が1回につき5分以内とし、一つのマッチで2回以内とする。(続けて2回取ることもできる。正審はプレーヤーのタイムごとに採点票のタイム欄の5に○をつける。)

(2) その他正審が特に必要と認めたとき。

14. 禁止事項

(1) プレーヤーはマッチ中パートナー以外の人から、アドバイスやからだの手当てを受けてはいけない。ただし、正審がレフェリーと相談して必要と認めたときはよい。

(2) マッチを行うプレーヤーやアンパイヤーなど認められた人以外は、マッチ中ソフトテニスコートに入ってはいけない。ただし、大会要項の中で、プレーヤー以外に部長・監督・コーチがソフトテニスコート内に入ることが認められた大会では、許された時間内(奇数ゲームが終わった後のサイドのチェンジとファイナルゲーム

に入るときで、ファイナルゲームでのサイドのチェンジのときはいけない。時間は前のポイントが終わってから1分以内に次のポイントを始めなければならないので(30秒位)でプレーヤーにアドバイスすることはよい。

(3) アドバイスは決められた位置で、移動することはできない。

(4) プレーヤーはプレーの進行や判定について、アンパイヤーに異議を申立て、または結果を不服としてプレーを中断してはいけない。

(例) プレーヤーや監督がボールの落ちたところを確かめるため、ネットを越えて相手のコートに行ってはいけない。また自分たちのコートであっても、ボールが落ちたところに近寄ったり、落ちた跡を消してはいけない。消したら失ポイントになる。「インターフェア」

15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか？(質問)

そんなときは質問をする。ただし、質問に対する結果が出ればそれにしたがう。

(例1) (質問)

「今のはアウト(イン)ではないですか？」

(質問に対する結果)

「いいえ、イン(アウト)です。」

(結果にしたがう)

その後速やかに次のポイントが始まる。…○

(例2) (質問)

「今のはアウト (イン) ではないですか？」

(質問に対する結果)

「いいえ、イン (アウト) です。」

(結果にしたがわない)

ボールが落ちたところへ行って「これアウト

(イン) ですよ！見に来てください」…×

16. 棄権になるのはどんなときか？

次のことに当てはまるプレーヤーは棄権とし、相手の勝ちを告げる。負けとなった方が、取っていたポイントとゲームは有効とする。

- (1) 参加申込をした大会に、参加しなかったとき。
- (2) 特別の理由によるプレーヤーまたはペアからの申し出に対し、競技責任者が認めたとき。
- (3) プレーヤーがからだの具合が悪くなり、タイムが認められ、決められた時間内に回復できなかったとき。「タイムアップゲームセット」

17. 警告

プレーヤー (団体戦のときは部長・監督・コーチを含む) が次のところで決められていることに違反したときは、警告 (イエローカード) を与える。

4. プレーヤーがよくわかっていなければならない

いこと (心得) (P. 3 参照)

14. 禁止事項 (P. 19 参照)

- * イエローカードの出し方：違反したプレーヤー (監督・コーチを含む) に対して「イエローカード」を示す。その後採点票に記録する。

18. 失格になるのはどんなときか？

(レフェリーストップゲームセット)

- (1) 大会要項の参加条件に違反していることが発見されたとき。(団体戦ではチームが失格となる。)
- (2) そのマッチへ出場の連絡を受けたプレーヤーがコートに出場しないとき。
- (3) マッチ開始後 (インプレー) に、オーダーどおりに出ていないことがわかったとき。
- (4) 1 マッチ中に警告が3回になったとき。「レッドカード」

19. マッチの中止と再開

- (1) 天候やその他の事情でマッチが一旦中止または延期になったときは、その後のポイントから引き続き始めるのを原則とする。
- (2) コートを変更したり、後日再開される場合のサイドは、そのマッチでサイドを選んだペアを選ぶ。同じ日に同じコートで始めるときは中止前のままとする。

20. 順位の決め方

- (1) トーナメント戦の場合は、勝ち残りで行い、最後まで残ったペアまたはチームを優勝者とする。
- (2) リーグ戦の場合は、勝率 (勝った試合数 / 全部の試合数) の高い順に順位を決める。
勝率が同じときは次のように決める。
① 二者が同率のときは、この二者の対戦で勝った方を上位とする。
② 同率者が三つ以上あるときは、同率者だけを取り出してリーグ戦表を作り、勝率の高い順から順位を決める。
③ ②でも同率者があるときは、以下の順で、差の大きい方を上位とする。

・個人戦

- ア) 得ゲーム数 - 失ゲーム数
- イ) 得ポイント数 - 失ポイント数

・団体戦

- ア) 得マッチ数 - 失マッチ数
- イ) 合計得ゲーム数 - 合計失ゲーム数
- ウ) 合計得ポイント数 - 合計失ポイント数

- ④ ①②③によっても順位が決まらない場合は、大会主催者は抽選その他の方法により順位を決める。

審判規則について

1. アンパイヤーの任務と心得

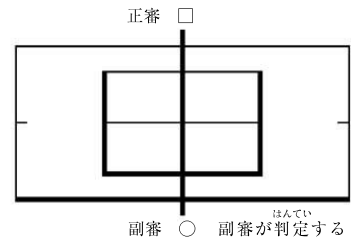
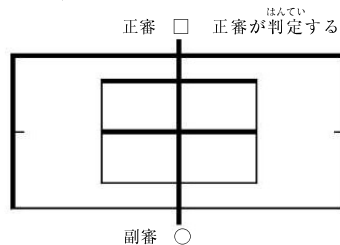
- (1) アンパイヤーは正審1人、副審1人を原則とする。
- (2) アンパイヤーはマッチの進行係であり、ルールにしたがい公正な判定をし、スムーズに進めなければならない。
- (3) 正審は、審判台の上で大きな声でコールしてマッチを進め、自分の判定区分を判定する。また、副審のサインやコールを確かめた後、これを尊重してはっきりとコールし、採点票に記録する。
- (4) 副審は審判台と反対側のサイドラインの外側で、ネットポストの後方約60cm (定位置) のところに立つ。ただし、サービスの判定のときには、レシーブ側のサービスラインの仮想延長線上で、コートに入らないように構え、サービスが入ったことを確かめたら定位置へすばやく走って移動しラリーを見守る。また、副審の判定区分の判定を受持つとともに正審を助ける。
- (5) 副審は、「区画線による判定区分」についてはサインで、「その他の判定区分」についてはサインとともにコールで正審に知らせる。
- (6) 副審はボールを管理する。(マッチ開始前に

ボールのバウンドが2個揃っているかを確認し、ゲームセットの後はボールを本部へ返す。

- (7) 競技規則と審判規則をよく学習して、審判がきちんとできるようにしておく。
- (8) アンパイヤーの服装は、原則としてソフトテニスをするときの服装とする。
- (9) プレーヤーより先に準備を整えてプレーヤーを待つ。
- (10) 動作や言葉遣いに注意して、きびきび、はきはきと行う。
- (11) マッチがスムーズに明るく楽しくできるように努力する。
- (12) コールは定められたとおり大きな声で行う。
- (13) サインは定められたとおりはっきり正確に行う。
- (14) 正審と副審は連絡を取り合い、力をあわせて審判を行う。
- (15) それぞれの判定区分を守る。

2. アンパイヤーの判定区分

(1) 区画線による判定区分



(2) その他の判定区分 (正審も副審も同じ)

ツーバウンド ドリブル キャリー
 ダイレクト インターフェア
 ボディタッチ タッチ チップ
 ネットオーバー ネットタッチ スルー
 レット ノーカウント フットフォールト

3. サイン

- (1) アンパイヤーはインのボールに対してはサインをしない。ただし、インであるがプレーヤーがどちらかわからないで迷いそうなときは、手のひらを下にして片手を前ななめ下に差し出す。

(2) 副審のサイン

- ① サービスのときの構えは、付図(ア)のとおり、片足(レシーブ側)を前に出して腰を低くして構え、足を出した側の手は膝の上に軽く置く。
- ② フォールト (区画線の判定区分による。ネッ

トにかかったものはサインをしない。)のときは、付図(イ)のとおり、構えた姿勢のまま指を伸ばし肘が直角になるように片手を上に挙げる。

- ③ レットのときは、付図(ウ)のとおり、両足をそろえてまっすぐに立ち、片手を上に挙げるとともに、ファーストサービスは指を2本、セカンドサービスでは指を1本立てて、「レット」とコールする。
- ④ 打ったボールがアウトしたときは、付図(エ)のとおり、ボールが落ちたところへまっすぐ向き、目は落ちたところをじっと見て指を伸ばし外側の手を上に挙げる。
- ⑤ その他の判定区分は、付図(オ)のとおり、片手で失ポイントになることをしたプレーヤーを指して(例えば「ネットタッチ」と)コールする。右側のプレーヤーには右手で、左側のプレーヤーには左手で指す。
- ⑥ ノーカウントにすることを正審に伝えるときは、付図(カ)のとおり、両手を顔の前で交差するように振り「ノーカウント」とコールする。
- ⑦ タイムは付図(キ)のとおり、手のひらを正審のほうに向けて両手を挙げ、「タイム」とコールする。

付図

(ア) 副審の構えの姿勢



(イ) フォールト



(ウ) レット (コールもする)



(エ) アウト



(オ) その他の判定区分 (コールもする)

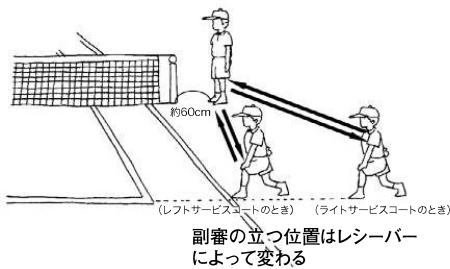


(カ) ノーカウント (コールもする)



(キ) タイム (コールもする)





4. 判定の確認と連携

アンパイヤーは、自分の判定区分でボールの落ちたところが、イン、アウト、またはフォルトであるか迷うときは、ボールの落ちた跡を確かめてから判定してよい。正審は副審に頼んでもよい。副審が判断できないときは、正審が審判台から降りて確かめてもよい。

5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）

プレーヤーからの質問の内容を確かめて、判定の結果を正審から知らせる。その判定に対して同じプレーヤーからの問合せは異議とみなし、イエローカード（警告）を出す。

6. 判定を間違えたときは？（判定の誤り）

アンパイヤーの判定がはっきり間違いであると認められるときは、正審はそのポイントに限り正しく直すことができる。ポイントカウントの間違いはそのゲーム中に、ゲームカウントの間違いはそのマッチ中に直

すことができる。

7. 間違ってインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたら？（プレーの停止）

インプレーで、アンパイヤーが間違ってインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたときは、すぐにプレーを止めさせる。そして、正審はサインまたはコールがプレーに差しさわりがあったと判断したら、ノーカウント（レシーブを終わる前はレット）とし、プレーに差しさわりがなかったと判断したら判定を正しく直すこと。

8. スコアの間違いはどうすればよい？（スコアの誤り）

(1) アンパイヤーは、ポイントカウントやゲームカウントがはっきり間違いであるとわかったときは、ファーストサービスがフォルトになったとき、または次のカウントをコールするときに、「コレクション」と言ってから正しいカウントをコールする。

(2) インプレーでは、間違いに気付いてもプレーを途中で止めさせず、そのプレーは有効とする。

9. アンパイヤーはマッチの途中で交替できるか？（交替の禁止）

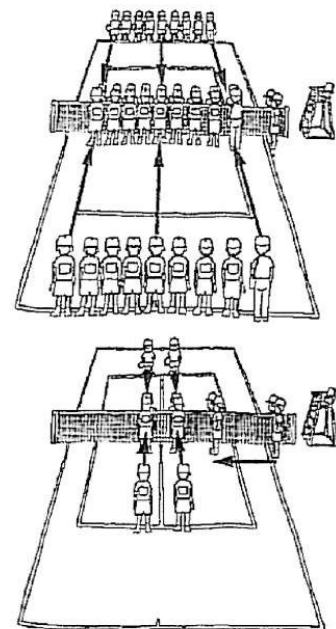
アンパイヤーはマッチの途中で交替できない。ただ

し、からだの具合が悪いときとか、次に自分のマッチにプレーヤーとして出なければならないときなど、レフェリーが認めたときは交替してよい。

10. マッチの進め方

(1) マッチ前の挨拶

- ① アンパイヤーは、ネットをはさんで正審と副審が審判台側のサイドラインの外側に立つ。
- ② 両方のプレーヤーが、サービスラインの外側中央に立ち、ネットの方向に向かい合い整列する。
- ③ 正審の合図「集合」というコールで、プレーヤーはネットへ近寄る。アンパイヤーもサービスコートの中央まで進む。
- ④ 「挨拶」というコールで、お互いにプレーヤー同士が挨拶を交わして、次にアンパイヤーとも挨拶をする。
- ⑤ 正審はプレーヤーの確認をする。
- ⑥ 団体戦のときは、両方のチーム全員がベースラインの外側に横に一线になって、ネットに向かって立ち、正審の合図「集合」というコールでネットに近寄る。なお、監督の位置はアンパイヤー側とする。
- ⑦ チーム全体の挨拶後は、それぞれの対戦ごとに個人戦と同じように進める。



チーム同士・各マッチでのあいさつの仕方

(2) トス（サービスカレシーブかまたは、サイドを決める）

- ① プレーヤーの確認が終わった後、ペアの片方のプレーヤーが「ジャンケン」をする。
- ② 負けた方がラケットの公認マーク（こちらが表となる）を相手に見せて、ラケットをコー

ト上に立てて回す。

- ③ラケットがコート面に倒れて止まる前に、ジャンケンに勝った側が「表」か「裏」かを言う。

- ④言いあてた側は、サービスかレシーブかまたは、サイドを選ぶ権利を得る。言いあてなかったときは、ジャンケンで負けた側がその権利を得る。

- ⑤相手のプレーヤーは、先取権を得たプレーヤーが選ばなかったものを選ぶ権利を持つ。

(3) マッチ開始前の練習

- ①サービス、レシーブ、サイドが決まったら、プレーヤーはマッチ開始前の練習をし、アンパイヤーはそれぞれ位置につく。練習時間は普通1分以内である。

- ②試合進行の状況によっては、練習時間が短められたり、設けられないこともある。

(4) 「レディ」

正審は「レディ」とコールし、練習を止めさせプレーヤーをマッチ開始の位置につかせる。

(5) マッチは次の要領で進める。

- ①正審は「サービスサイド○○(所属)○○・○○ペア、レシーブサイド○○(所属)○○・○○ペア、○ゲームマッチ、プレーボール」とコールしてマッチを開始する。

- ②正審は1ゲームが終わったら「ゲーム、チェ

ンジサイズ」とコールする。

副審は奇数ゲームが終わったときやファイナルゲームに入る前は定位置(ネットポストの後方約60cmのところ)で待つ。

- ③前のポイントが終わってから45秒位経ったら、正審は「レツププレー」とコールする。コールが聞こえない場合もあるので、そのようなときには副審がベンチまで行き「レツププレー」とコールするよう指示する。

副審がコールしても、次のゲームに入る準備をしなければイエローカード(警告)を出す。

- ④正審は「ゲームカウント〇-〇」とコールして第2ゲームを始める。

- ⑤正審は第2ゲームが終わったら「ゲーム、チェンジサービス」、「ゲームカウント〇-〇」とコールして第3ゲームを始める。以後同様に進める。

- ⑥正審は両方のペアが2ゲーム(3ゲーム)ずつ取ったときは、「ゲームカウント2オール(3オール)、ファイナルゲーム」とコールして始める。

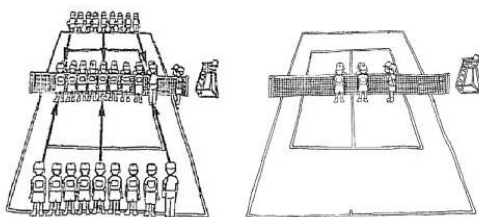
- ⑦正審はマッチが終わったら「ゲームセット」とコールして、すぐに審判台を降り、マッチ前(トスの位置)の挨拶をした位置に立つ。(最後のポイントを記入する時間的な余裕がない

ときは、挨拶を済ませてから採点票に記入する。)なお、プレーヤーはマッチ前にトスをしたネット中央に集合する。

- ⑧副審はマッチに使用したボールを回収し、マッチ前(トスの位置)の挨拶をした位置に立つ。

- ⑨正審が「〇対〇で〇〇ペアの勝ち」と勝敗を言った後、プレーヤー同士、そしてプレーヤーとアンパイヤーが挨拶をして解散する。この後は、質問・提訴は出来ない。

- ⑩団体戦のときは、試合前の挨拶と同じように、両方のチーム全員がベースラインの外側に横に並んで、ネットに向かって立ち、正審の合図「集合」というコールでネットに近寄り、正審が「〇対〇で〇〇チームの勝ち」と試合の勝敗を言った後、チーム同士、そして両方のチームとアンパイヤーが挨拶をして解散する。



チーム及び各マッチ終了後のあいさつの仕方

11. 採点票への記入の仕方

- (1) 正審は採点票に必要なことを正確に記入する。
- (2) サービスのペア(S)、レシーブのペア(R)が決まったらS・Rのところで○で囲む。
- (3) ポイントを得たとき○、失ったとき×を上段左から右に記入する。
- (4) ゲームが終わったら、そのゲームで得たポイント数を中央のスコア欄に記入し、そのゲームを得た側のポイント数を○で囲む。
- (5) マッチ終了後はスコア欄に得たゲーム数を記入し、勝者のゲーム数を○で囲む。
- (6) 警告欄にあてはまるペアおよび監督に対して出した警告(イエローカードY、レッドカードR)を○で囲み、該当事項欄にその理由を記入する。
- (7) タイムを取るごとにタイム欄の5を○で囲む。
- (8) サイドを選んだペアのプレーヤー欄の下部の「サイド」を○で囲む。
- (9) 勝者からサインを勝者サイン欄に記入してもらうこと。

[illegible]

12. 用語を正しく使おう

正	誤
ポイントカウント	ボールカウント
○ゲーム	○セット
○ゲームマッチ	○ゲームズマッチ
	ジュース
デュース	スリーオールジュース
	シックスオールジュース
アウト	バック（サイド）アウト
イン	セーフ
ネットタッチ	タッチネット
ネットオーバー	オーバーネット
チップ	ワンタッチ
ゲームセット	ゲームオーバー

13. 用語の意義と判定及びカウントのコール
(ふりがなし)

用 語	意 義
1 ソフトテニスコート	競技規則のうえでは、コート、アウトコート、ネット、ネットポスト及び審判台をいう。
2 コート	ベースラインとサイドラインで区画された平面の平坦なスペース縦 23.77m、横 10.97m の長方形とし、区画するラインの外側を境界とし、その中央をネットポストで支えられたネットで二分された部分をいう。
3 アウトコート	競技を支障なく行うためのコートの周辺のスペースをいう。ベースラインから後方に 8m 以上・サイドラインから外側に 6m 以上を原則とする。
4 サーフェイス	アウトドアではクレー、砂入り人工芝を含む人工芝又は全天候ケミカル等。インドアでは木板、砂入り人工芝を含む人工芝、硬質ラバー、ケミカル等とする。
5 ライトサービスコート	レシーバー側からネットに向かって右側のサービスコートをいう。
6 レフトサービスコート	レシーバー側からネットに向かって左側のサービスコートをいう。
7 付帯する施設・設備	フェンス、観覧席、ベンチ、その他のソフトテニスコートに付帯する施設・設備をいう。
8 用具	ネット、ボール及びラケットをいう。

用 語	意 義
9 コール	アンパイヤーの判定、ポイント及びゲームのカウント等、アンパイヤーが発声をもって表示することをいう。
10 サイド	コートネットを二分し、それぞれの片側をいう。
11 ポイント	スコアの最小単位をいう。
12 ゲーム	ポイントが集積されて規定に達することをいう。
13 セット	ゲームが集積されて規定に達することをいう。ソフトテニスでは通常1セットマッチである。
14 マッチ	1セットマッチの場合は、ゲームの集積されて規定に達することをいう。ロングマッチの場合はセットが集積されて規定に達することをいう。
15 試合	広義のトーナメント、リーグ戦、団体戦等マッチの集合をいう。
16 ショートマッチ	3ゲーム又は5ゲームマッチをいう。
17 ロングマッチ	3ゲーム、5ゲーム、7ゲーム又は9ゲームを1セットとし、3セット又は5セットマッチを行うことをいう。
18 インプレー	サービスが始まってからレット若しくはフォールトになるか、又はポイントが決まるまでの間をいう。

用 語	意 義
19 ゲーム中	ゲームの開始から終了までをいう。インプレーのほか、ポイントとポイントの間やタイム中も含まれる。
20 マッチ中	プレーボールからマッチが終了までの間をいう。ゲーム中のほかにゲームとゲームの間も含まれる。
21 サーバー	サービスサイドのプレーヤー又はペアをいう。
22 レシーバー	レシーブサイドのプレーヤー又はペアをいう。
23 パートナー	ダブルスマッチで組むプレーヤーで、サービス（レシーブ）をするプレーヤーの他のプレーヤーをいう。2人はお互いにパートナーである。
24 サービス	ポイントの最初にボールを打つ行為をいう。
25 レシーブ	サービスされたボールを打ち返す行為をいう。
26 有効返球	インプレーで、失ポイントにもノーカウントにもならない打球をいう。
27 直接関係者	そのマッチのプレーヤー及びアンパイヤーをいう。
28 関係者	プレーヤー、部長、監督、コーチ（外部コーチを含む）、該当チーム（ペア）の応援団の総称をいう。
29 着衣	プレーヤーが身体につけている服装等をいう。帽子、タオル、眼鏡等を含む。

用 語	意 義
30 アンパイヤー	正審、副審、線審の総称をいう。
31 レフェリー	審判委員長、審判副委員長で競技規則等の解釈と適用に対する権限を持つ者をいう。
32 レフェリー長	レフェリーの統括責任者（審判委員長）をいう。
33 コート主任	必要と認める場合に置かれ、担当するコートの進行を促し、必要により、アンパイヤーに指導及び助言を行う者をいう。
34 提訴	アンパイヤーの判定に対し、競技規則及び審判規則の適用に疑義を持ち、レフェリーに判定を求めることをいう。レフェリーの判定は最終のもので、アンパイヤーもプレーヤーも従わなければならない。
35 シード	組合せを作る時に強いプレーヤー、ペア又はチームを規定により要所に配置することをいう。
36 不戦勝	組合せの中でマッチを行わず次の回戦へ進むことをいう。
37 大会委員長	大会運営の最高責任者
38 競技責任者	大会競技運営の責任者

用 語	意 義
39 トス	（1）マッチ開始に先立って、サービス（レシーブ）とサイドを決めることをいう。（2）サービスするために手からボールを放すことをいう。（2）の場合は、特に「サービスのトス」という。
40 棄権	競技規則についての16（棄権になるとき）に書かれている事に該当する場合で相手の勝ちとすることをいう。この場合負けとなったプレーヤー、ペア又はチームがすでに得たポイント及びゲームは有効である。
41 失格	競技規則についての18（失格になるとき）の各号により試合の参加が出来なくなった場合で大会の最初にさかのぼって出場の資格を失う。
42 警告	競技規則についての17（警告）または4（プレーヤーがよくわかっていなければならないこと（心得））、14（禁止事項）に違反したときに選手にイエローカードを示し、警告を与えること。
43 スtring	ラケットのフレームに張る糸のことをいう。（以前はガットといていた）

判定及びカウントのコール

用 語	意 義
1 ready レディ	マッチ開始の前に練習をやめさせ、プレーヤーを位置につかせるコール
2 service side サービスサイド	サービスをする方の側を示すコール
3 receive side レシーブサイド	レシーブをする方の側を示すコール
4 seven-game match セブンゲームマッチ	ゲーム7のマッチを示すコール。他にファイブゲームマッチ、ナインゲームマッチ、スリーゲームマッチ、ショートゲームマッチ等がある。
5 play ball プレーボール	マッチ開始のコール
6 let レット	競技規則についての7（サービス）（6）により、そのサービスをやり直させるコール
7 foot fault フットフォールト	競技規則についての7（サービス）（5）の⑦に該当した時のコール
8 fault フォールト	競技規則についての7（サービス）（5）でサービスがフォールトになるときの各号に適用した時のコール

用 語	意 義
9 double fault ダブルフォールト	ファーストサービス及びセカンドサービスがともにフォールトとなった場合のコール。1 ポイントを失う。
10 in イン	インプレーでボールがライン内、又はラインに触れてバウンドした場合。
11 out アウト	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）の（2）に該当した時のコール
12 direct ダイレクト	(1) サービスボールがノーバウンドでレシーバーの身体、着衣、ラケットに触れた場合のコール。レシーバーの失ポイント (2) 打たれたボールをアウトコートにおいて、ノーバウンドでラケットで止めた場合のコール（失ポイント）。ただし、ラケットで打ち返して有効返球となればプレーは続けられる。
13 no count ノーカウント	競技規則についての 12（ノーカウントになるのはどんなときか）に該当し、そのポイントを採用しないで、やり直すことをいう。
14 time タイム	競技規則についての 13（タイム）によりプレーを中断する場合のコール

用 語	意 義
15 no time ノータイム	タイムが終わってプレーを再開する場合のコール
16 net touch ネットタッチ	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（6）によりインプレーでラケット、身体、着衣等がネット、ネットポストに触れた場合のコール
17 touch タッチ	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（7）によりインプレーでラケット、身体、着衣等が審判台、アンパイヤーに触れた場合のコール
18 net over ネットオーバー	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（5）によりインプレーでラケット、身体、着衣等が一部でもネットを越えた場合のコール（失ポイント）。ただし、打球後の惰性で越えてインターフェアとならない場合は失ポイントとならない。
19 through スルー	ボールがネットの破れ目、ネットの下、ネットとネットポストの間を通った場合のコール
20 body touch ボディタッチ	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（4）によりインプレーのボールが身体、着衣等に触れた場合のコール
21 tip チップ	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（13）によりボールがラケットのフレームに触れて返球できなかった場合のコール

用 語	意 義
22 two bounds ツーバウンズ	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（3）により 2 回以上バウンドしたボールを打った場合のコール
23 dribble ドリブル	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（9）により打球のときボールが 2 回以上ラケットに当たった場合のコール。インプレーのときは失ポイント、サービスのときはフォールトとなる。
24 carry キャリー	競技規則についての 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（10）によりラケット上でボールが静止した場合のコール
25 interfere インターフェア	競技規則についての 8（レシーブ）（2）（レシーブでポイントを失うときはどんなときか）③④⑤及び 11（ポイント）を失うのはどんなときか）（8）（11）（15）（16）を適用するコール
26 correction コレクション	正審がコール又はカウントを誤ったとき訂正にあたって行うコール
27 change sides チェンジサイズ	競技規則についての 9（サービス、レシーブのチェンジとサイドのチェンジ）（1）（2）より、サイドを交替し、サービスを相手方と交替することを命ずるコール

用 語	意 義
28 change service チェンジサービス	競技規則についての 9（サービス、レシーブのチェンジとサイドのチェンジ）（1）（2）により、サービスを相手方と交替することを命ずるコール
29 rotation change ローテーションチェンジ	パートナーと交替することを命ずるコール又は、サービスコートの順序が誤っていることを知らせるコール
30 let's play レッツプレー	連続的にプレーすることを命ずるコール
31 referee's stop game set レフェリーストップ ゲームセット	競技規則についての 16（棄権になるときはどんなときか）18（失格になるときはどんなときか）に該当した場合のコール。該当したプレーヤー、ペア又はチームの負け。相手側の勝ちを宣告する。
32 time is up game set タイムアップ ゲームセット	競技規則についての 16（棄権になるときはどんなときか）（3）により決められた時間内に回復せず相手方に勝ちを宣告するコール
33 retirement リタイヤメント	競技規則についての 16（棄権になるときはどんなときか）により、棄権を宣告するコール。「レフェリーストップゲームセット」又は「タイムアップゲームセット」につづけてコールする。
34 disqualification ディスクオリフィケーション	競技規則についての 18（失格になるときはどんなときか）により失格を宣告するコール。「レフェリーストップゲームセット」につづけてコールする。

用 語	意 義
35 one more service ワンモアサービス	レットのあと、サービスをするプレイヤーにセカンドサービスを指示するコール
36 two more service ツーモアサービス	レットのあと、サービスをするプレイヤーにファーストサービスを指示するコール
37 one zero (zero one) ワンゼロ(ゼロワン)	サーバー (レシーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
38 two zero (zero two) ツーゼロ(ゼロツー)	サーバー (レシーバー) が 2 ポイントを得たときのコール
39 three zero (zero three) スリーゼロ(ゼロスリー)	サーバー (レシーバー) が 3 ポイントを得たときのコール
40 two one (one two) ツーワン(ワンツー)	サーバー (レシーバー) が 2 ポイント、レシーバー (サーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
41 three one (one three) スリーワン (ワンスリー)	サーバー (レシーバー) が 3 ポイント、レシーバー (サーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
42 three two (two three) スリーツー (ツースリー)	サーバー (レシーバー) が 3 ポイント、レシーバー (サーバー) が 2 ポイントを得たときのコール
43 one all ワンオール	双方が 1 ポイントずつ得たときのコール
44 two all ツーオール	双方が 2 ポイントずつ得たときのコール
45 three all スリーオール	双方が 3 ポイントずつ得たときのコール

用 語	意 義
46 three four (four three) スリーフォー (フォースリー)	サーバー (レシーバー) が 3 ポイント、レシーバー (サーバー) が 4 ポイントを得たときのコール
47 three five (five three) スリーファイブ (ファイブスリー)	サーバー (レシーバー) が 3 ポイント、レシーバー (サーバー) が 5 ポイントを得たときのコール
48 four zero (zero four) フォーゼロ(ゼロフォー)	サーバー (レシーバー) が 4 ポイントを得たときのコール
49 four one (one four) フォーワン (ワンフォー)	サーバー (レシーバー) が 4 ポイント、レシーバー (サーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
50 four two (two four) フォーツー (ツーフォー)	サーバー (レシーバー) が 4 ポイント、レシーバー (サーバー) が 2 ポイントを得たときのコール
51 four five (five four) フォーファイブ (ファイブフォー)	サーバー (レシーバー) が 4 ポイント、レシーバー (サーバー) が 5 ポイントを得たときのコール
52 five zero (zero five) ファイブゼロ (ゼロファイブ)	サーバー (レシーバー) が 5 ポイントを得たときのコール
53 five one (one five) ファイブワン (ワンファイブ)	サーバー (レシーバー) が 5 ポイント、レシーバー (サーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
54 five two (two five) ファイブツー (ツーファイブ)	サーバー (レシーバー) が 5 ポイント、レシーバー (サーバー) が 2 ポイントを得たときのコール

用 語	意 義
55 four all フォーオール	双方が 4 ポイントずつ得たときのコール
56 five all ファイブオール	双方が 5 ポイントずつ得たときのコール
57 six zero (zero six) シックスゼロ (ゼロシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイントを得たときのコール
58 six one (one six) シックスワン (ワンシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイント、レシーバー (サーバー) が 1 ポイントを得たときのコール
59 six two (two six) シックスツー (ツーシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイント、レシーバー (サーバー) が 2 ポイントを得たときのコール
60 six three (three six) シックススリー (スリーシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイント、レシーバー (サーバー) が 3 ポイントを得たときのコール
61 six four (four six) シックスフォー (フォーシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイント、レシーバー (サーバー) が 4 ポイントを得たときのコール
62 six five (five six) シックスファイブ (ファイブシックス)	サーバー (レシーバー) が 6 ポイント、レシーバー (サーバー) が 5 ポイントを得たときのコール
63 deuce デュース	双方が 3 ポイントずつ得たとき 又ファイナルゲームの場合は 6 ポイントずつ得たときのコール
64 advantage server (receiver) アドバンテージサーバー (レシーバー)	デュース後サーバー (レシーバー) が、1 ポイントを得たときのコール

用 語	意 義
65 deuce again デュースアゲン	アドバンテージを得た側が次のポイントを連取できなくて(相手がポイントを得て) 同ポイントになったときのコール
66 game ゲーム	ゲームが終了したときのコール
67 game count (one zero) ゲームカウント (ワンゼロ)	次のゲームの開始前にサーバー側からその得たゲームのスコアをポイントカウントと同じ要領で示すコール。 ただし、ゲームカウントが 3-3、4-4 等となったときデュースやデュースアゲンといわずスリーオール、フォーオールなどとコールする。
68 final game ファイナルゲーム	7 ゲームマッチの場合ゲームカウントが 3-3 になり、最終のゲームであることを示すコール。ゲームカウントにつづけてコールする。
69 game set ゲームセット	ゲームが終わり、同時にマッチも終わったときのコール

ジュニア審判マニュアル

ソフトテニスのルール (きまり) と
審判のしかた

2021 年 4 月 1 日

編集・発行 公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

〒140-0014 東京都品川区大井 1-16-2-201
TEL 03-6417-1654 FAX 03-6417-1664

●無断転載をお断りします